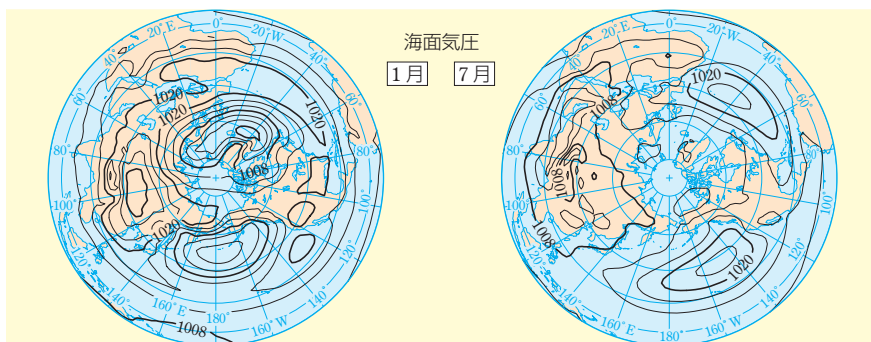
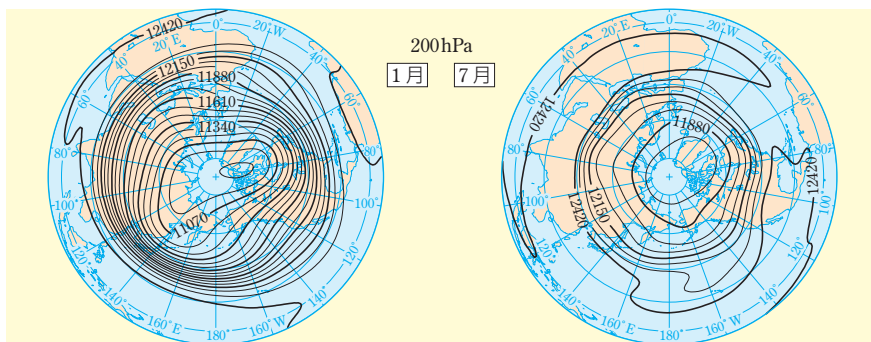


北半球と南半球を比べると、北半球では夏と冬の違いが大きく、また等圧面等高線の形は同心円からかなりずれている。これは、北半球では大陸と海洋の熱的性質の違いや、大陸の地形が大気の流れに及ぼす影響が、陸地の少ない南半球よりも強く現れるためである。

●背の高い高気圧と背の低い高気圧● 図 21 の海面気圧を見ると、夏(7月)には海洋で高気圧が、冬(1月)には大陸上で高気圧が見られる。夏の海洋上の高気圧は p.251 図 20 の 500 hPa 等圧面天気図にも高圧部として見える背の高い高気圧であるが、冬の大陸の高気圧は p.251 図 20 の 500 hPa 等圧面天気図では見えない背の低い高気圧であることもわかる。^{*1} 冬の大陸の高気圧の背が低いのは、放射冷却によって冷たくなった大陸に接した空気が冷やされ重くなって高気圧ができるためである。夏の海洋の高気圧の成因は、ハドレー循環などの対流圏上層に及ぶ大気循環に関係していると考えられる。



▲図 21 北半球の海面の月平均気圧分布



▲図 22 北半球の 200 hPa の月平均高度

*1 厳密に定義されてはいないが、「背の低い=2 km 程度」,「背の高い= 約 10 km 以上」として用いられる。